

長野市における高齢者交通事故発生箇所の特徴分析

令和7年2月 森谷 匠

要旨

目的

近年、我が国では高齢者人口及び高齢運転者が増加傾向にあり、65歳以上の高齢者が関わる死亡事故件数の割合も年々増加している。長野市も例外ではなく増加傾向にある。本研究では警察庁の交通事故統計情報を用いて、高齢者が関わる交通事故発生箇所を分析し、長野市で起こっている高齢者交通事故の特徴の把握を行った。

方法

長野市の交通事故統計情報を基に、交通事故の第一次当事者を年齢層ごとに分類し、それぞれで分析を行うことで、高齢者特有のリスク要因や若年層との交通事故の特徴の相違について明らかにした。また、交通事故統計情報に加え、病院・診療所の施設密度や各用途地域面積、高齢化率といった交通事故発生箇所以外の要因も考慮し、重回帰分析を行った。

結論

高齢者交通事故の特徴として、霧や雪、曇りの視界不良時や中央分離帯がない道路、押しボタン式信号で人对車両の事故率が上昇することが分かった。また、歩車道区分がない道路では、車両相互の事故率が高くなることが確認された。さらに長野市では、長野市における高齢者の交通事故リスクは他の市と比較して、第一種住居地域面積割合の高さと高齢者の歩行機会の多さに起因する可能性があることが示唆された。

これらの要因として、高齢者の視認力や判断力の低下、信号や横断時の判断ミスなどが考えられ、このことから、歩行者優先の道路設計や横断歩道・信号機の整備、速度制限の強化、夜間の街路灯の増設などの対策が必要である。今後の課題としては、高齢者の個人属性のばらつきを考慮した、より詳細なデータによる分析が必要になると思われる。

指導教員 高瀬 達夫 准教授